

Ⅲ 調査の結果

1 暮らし向き

問1 暮らし向き

お宅の暮らし向きは、今年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

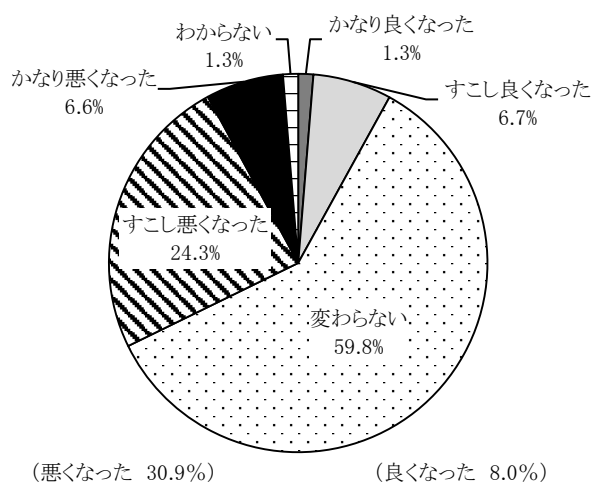
	(%)
1 かなり良くなった	1.3
2 すこし良くなった	6.7
3 変わらない	59.8
4 すこし悪くなった	24.3
5 かなり悪くなった	6.6
6 わからない	1.3

それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(回答者 = 336人)	(%)
1 日常の生活費が増えた	31.3	31.3
2 収入が減った(働き手が減った)	36.0	36.0
3 営業不振、営業経費が増えた	3.9	3.9
4 教育費が増えた	6.5	6.5
5 特別事情による(結婚、出産、病気、災害など)	13.4	13.4
6 その他	8.6	8.6
7 わからない	0.3	0.3

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「悪くなった」と答えた人の割合が、30.9%（「すこし悪くなった」：24.3%、「かなり悪くなった」：6.6%）、「変わらない」が、59.8%を占めている。

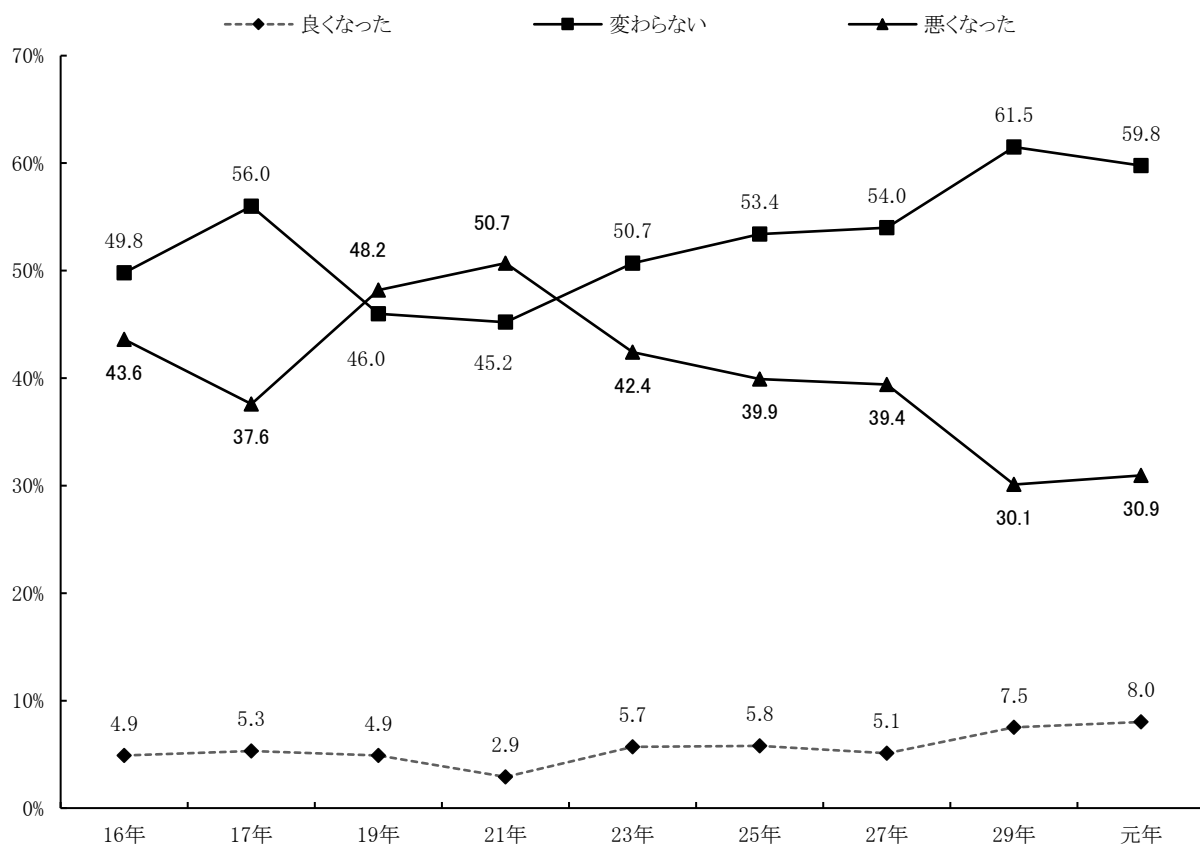
また、「良くなった」と答えた人の割合は、8.0%（「かなり良くなった」：1.3%、「すこし良くなった」：6.7%）であった。



【経年変化】

経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が、平成 21 年から平成 29 年まで減少に転じていたが、平成 29 年調査（以下「前回調査」という。）と比較して 0.8 ポイント増加している。

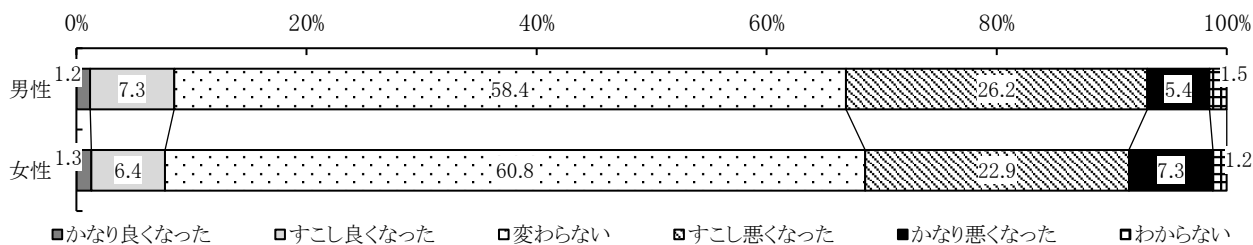
また、「変わらない」及び「良くなった」と答えた人の割合は、前回調査と比較して、「変わらない」が 1.7 ポイント減少、「良くなった」が 0.5 ポイント増加している。



【性別】

性別にみると、「良くなった」及び「変わらない」と答えた人の割合の合計は、男女共に 6 割を超えている。（男性 66.9%、女性 68.5%）

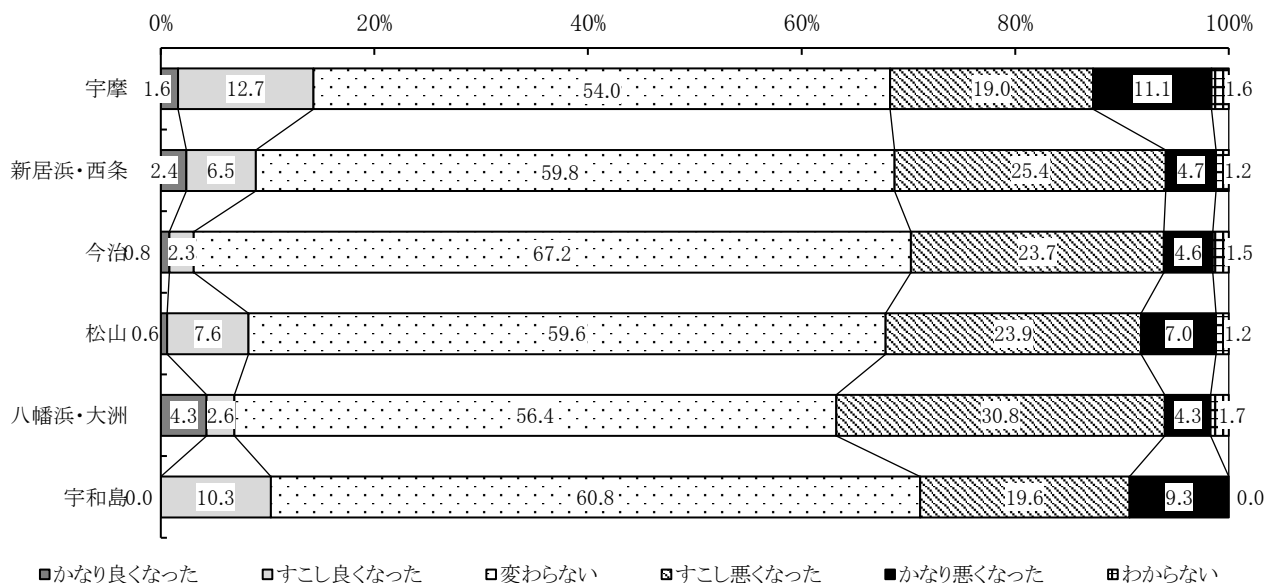
一方、「悪くなった」と答えた人の割合は、男性（31.6%）の方が女性（30.2%）よりも多く、「良くなった」も男性（8.5%）の方が女性（7.7%）よりも多くなっている。



【生活圏域別】

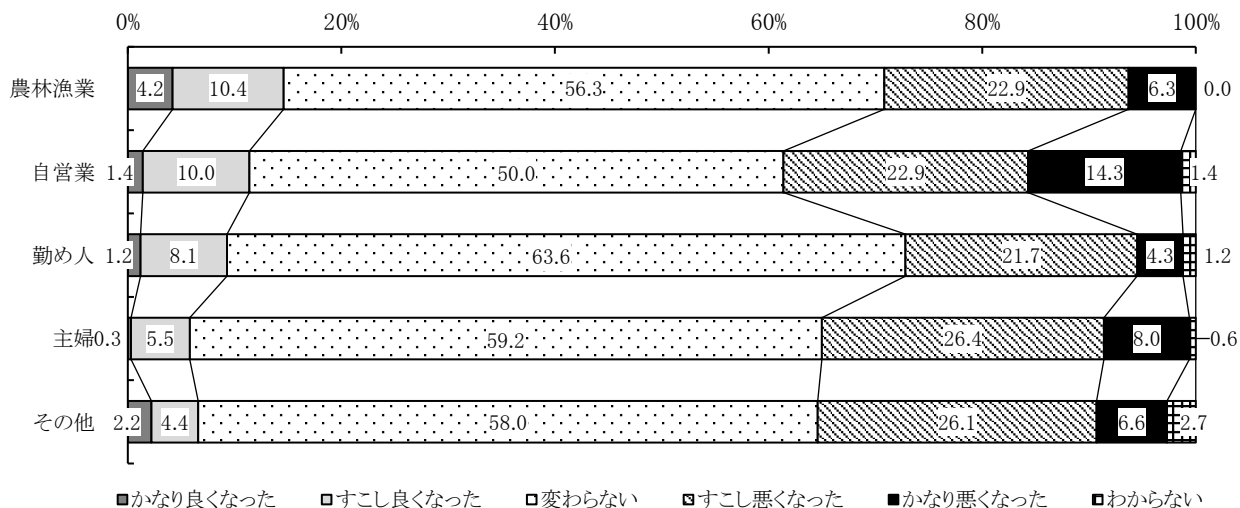
生活圏域別にみると、全ての圏域で「変わらない」と答えた人の割合が最も多く、全ての圏域で50%以上となっており、最も多いのが今治圏域（67.2%）となっている。

また、宇摩圏域では、「良くなった」と答えた人の割合が14.3%で、前回調査より10.0ポイント増加している。



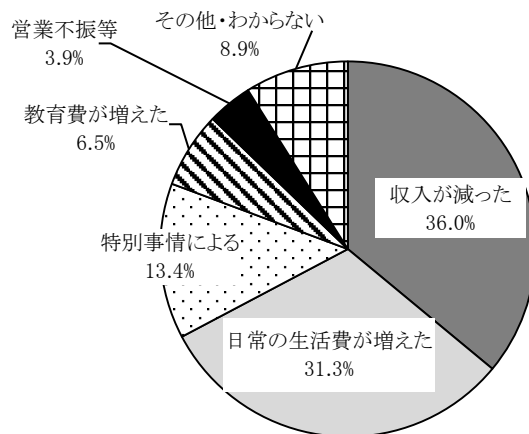
【職業別】

職業別にみると、勤め人で「変わらない」と答えた人の割合が、63.6%で最も多くなっている。農林漁業で「良くなった」と答えた人の割合が14.6%で、前回調査より9.7ポイント、自営業で「悪くなった」と答えた人の割合が37.2%で、前回調査より4.6ポイント増加している。



《暮らし向きが悪くなった理由》

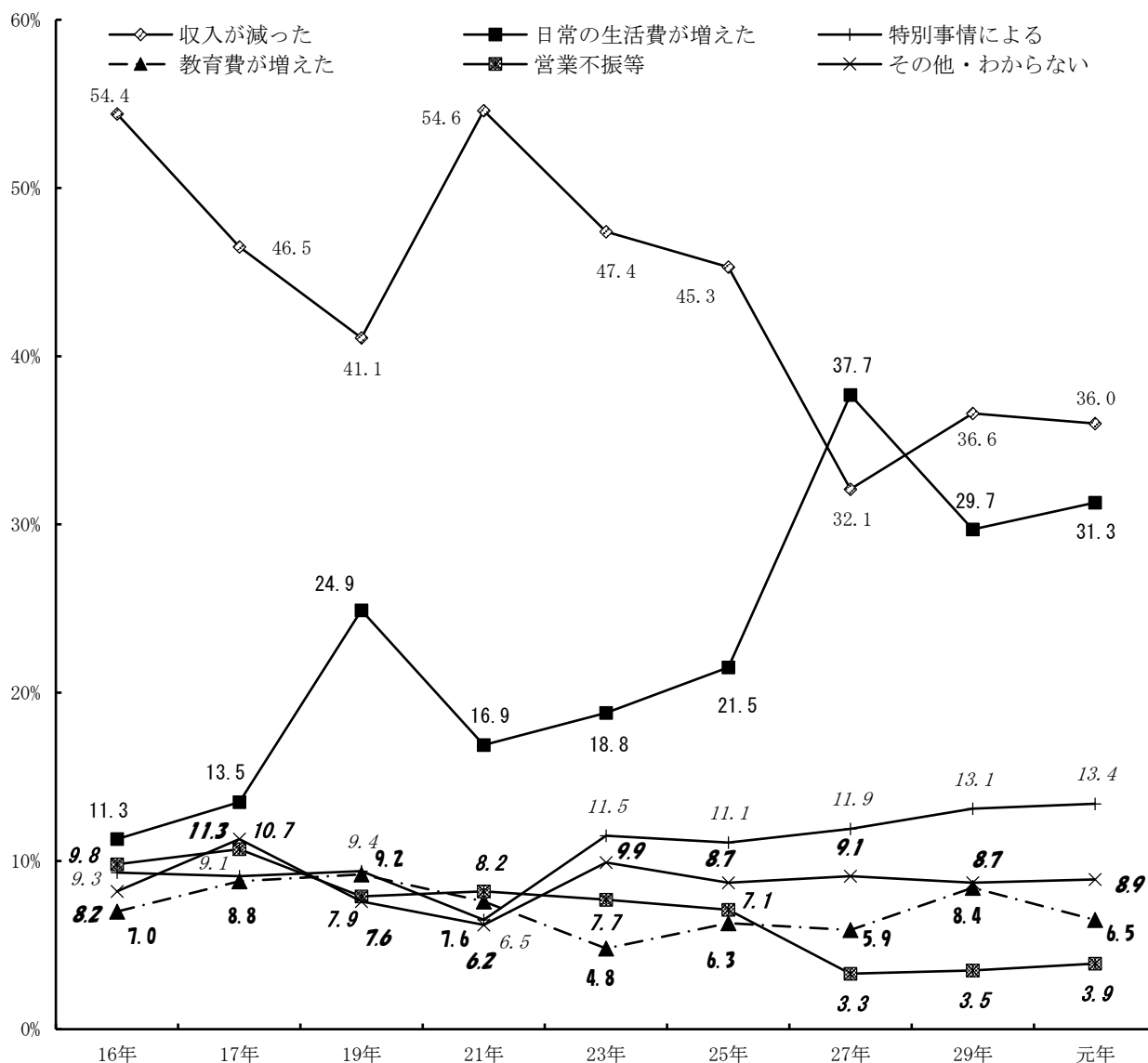
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った）」(36.0%)、以下「日常の生活費が増えた」(31.3%)、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」(13.4%)、「その他・わからない」(8.9%)、「教育費が増えた」(6.5%)、「営業不振、営業経費が増えた」(3.9%)の順となっている。



【経年変化】

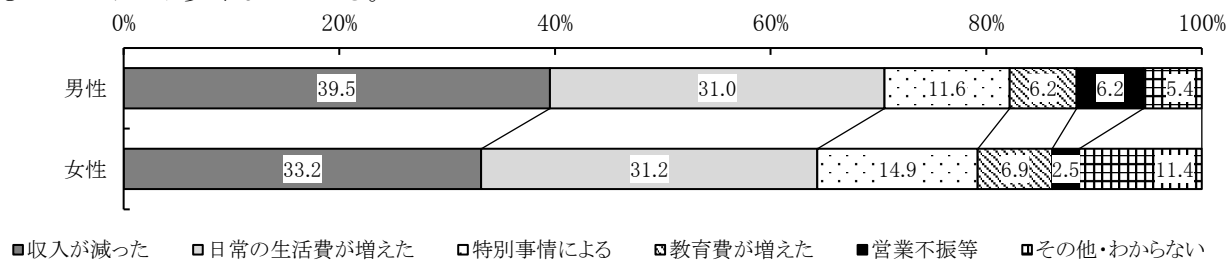
変化をみると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「日常の生活費が増えた」と答えた人の割合は、前回調査よりも1.6ポイント増加しているが、「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合は、0.6ポイント減少している。

また、「教育費が増えた」は、前回調査より1.9ポイント減少している。



【性別】

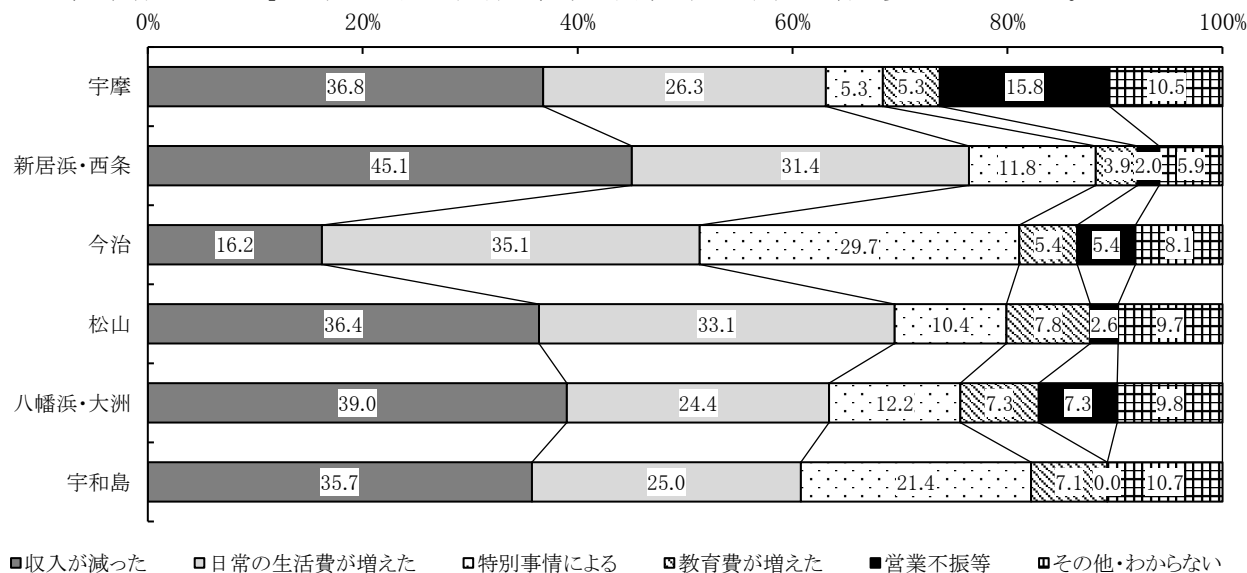
性別にみると、男女共に「収入が減った」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性 39.5%、女性 33.2%）（前回調査と比較すると、男性で 1.0 ポイント増加、女性で 2.4 ポイント減少）男性の方が女性よりも 6.3 ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域を除く全ての圏域で「収入が減った」と答えた人の割合が最も多く、今治圏域では「日常の生活費が増えた」が最も多くなっている。前回調査と比較すると、「収入が減った」は新居浜・西条圏域で 11.1 ポイント増加している。

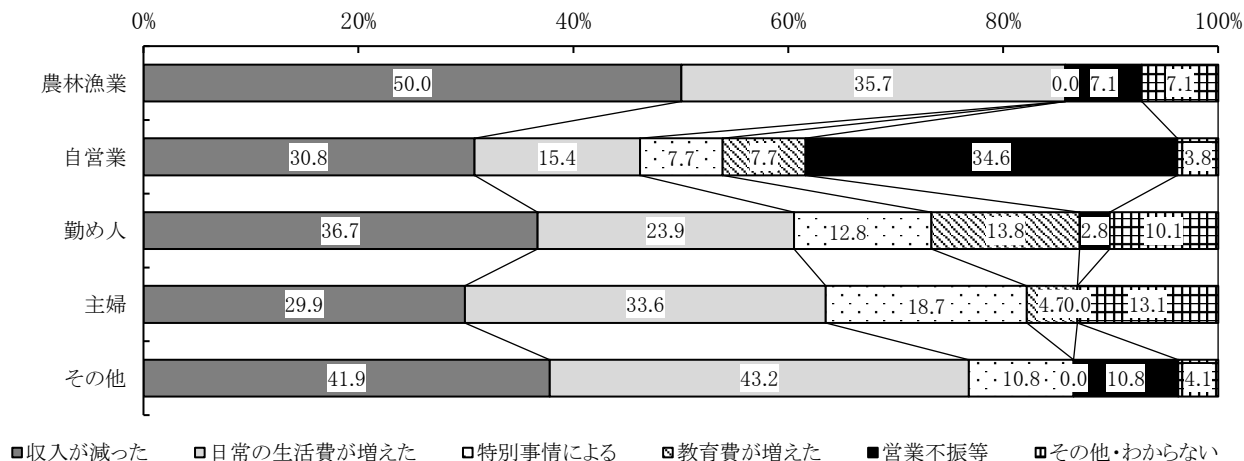
また、「営業不振など」と答えた人の割合は、宇摩圏域（15.8%）で最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦を除く全ての職種で「収入が減った」と答えた人の割合が最も多い。主婦では「日常の生活費が増えた」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、農林漁業で「収入が減った」が 11.5 ポイント減少し、「日常の生活費が増えた」が 20.3 ポイント増加している。



問2 暮らし向きの変化

お宅の暮らしの中で、次の各項目は、昨年のおごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するものを一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

(%)

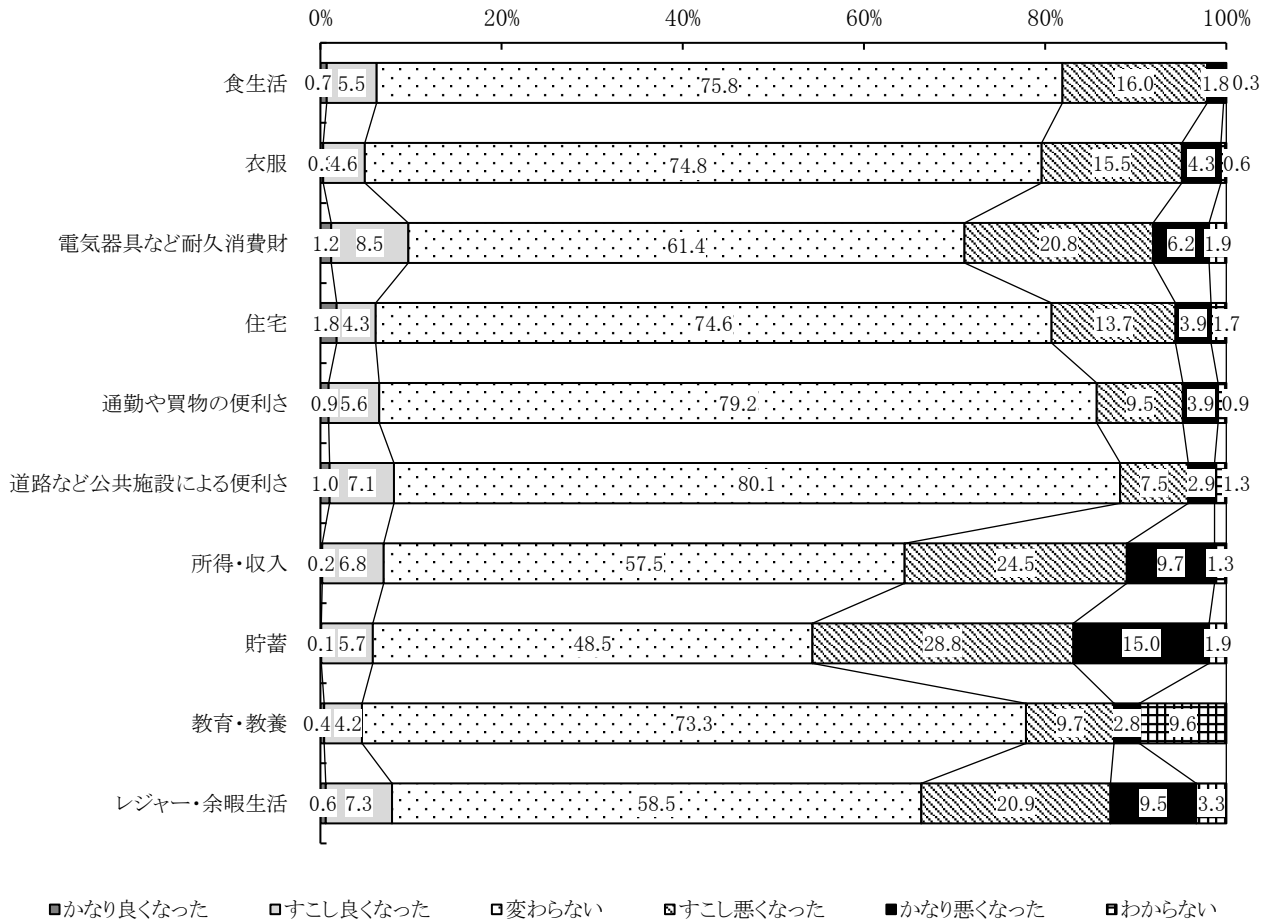
項 目	かなり良くなった	すこし良くなった	変わらない	すこし悪くなった	かなり悪くなった	わからない
1 食生活	0.7	5.5	75.8	16.0	1.8	0.3
2 衣服	0.3	4.6	74.8	15.5	4.3	0.6
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	1.2	8.5	61.4	20.8	6.2	1.9
4 住宅	1.8	4.3	74.6	13.7	3.9	1.7
5 通勤や買物の便利さ	0.9	5.6	79.2	9.5	3.9	0.9
6 道路など公共施設による便利さ	1.0	7.1	80.1	7.5	2.9	1.3
7 所得・収入	0.2	6.8	57.5	24.5	9.7	1.3
8 貯蓄	0.1	5.7	48.5	28.8	15.0	1.9
9 教育・教養	0.4	4.2	73.3	9.7	2.8	9.6
10 レジャー・余暇生活	0.6	7.3	58.5	20.9	9.5	3.3

(%)

(参考)	良くなった	変わらない	悪くなった
1 食生活	6.2	75.8	17.8
2 衣服	4.9	74.8	19.8
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	9.7	61.4	27.0
4 住宅	6.1	74.6	17.6
5 通勤や買物の便利さ	6.5	79.2	13.4
6 道路など公共施設による便利さ	8.1	80.1	10.4
7 所得・収入	7.0	57.5	34.2
8 貯蓄	5.8	48.5	43.8
9 教育・教養	4.6	73.3	12.5
10 レジャー・余暇生活	7.9	58.5	30.4

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年と比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」）と思うか、それとも「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」）と思うかをそれぞれ聞いたところ、「所得・収入」及び「貯蓄」の項目で「悪くなった」と答えた人の割合が多くなっている。（「所得・収入」：34.2%、「貯蓄」：43.8%）

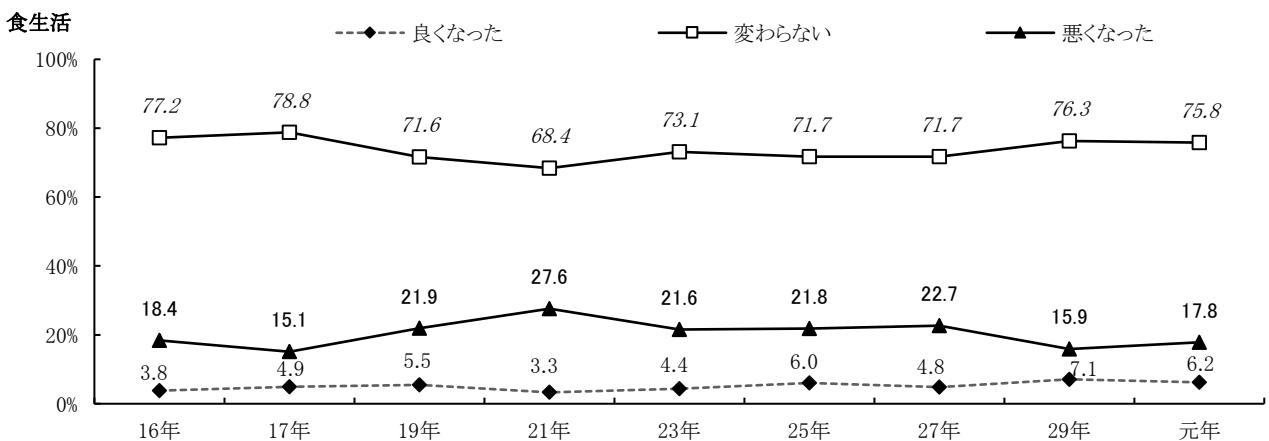
また、「良くなった」と答えた人の割合が比較的多い項目としては「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」（9.7%）、「道路など公共施設による便利さ」（8.1%）などが挙げられるが、全ての項目で「悪くなった」を下回っている。

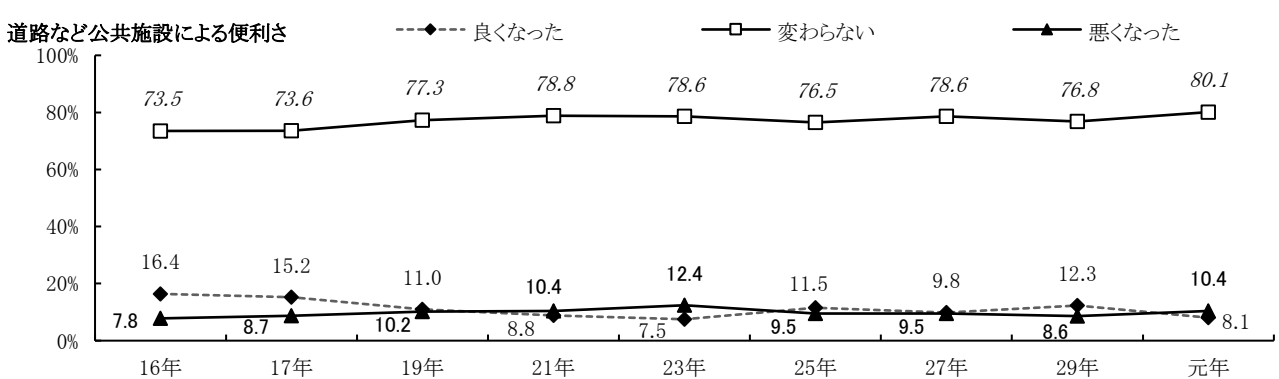
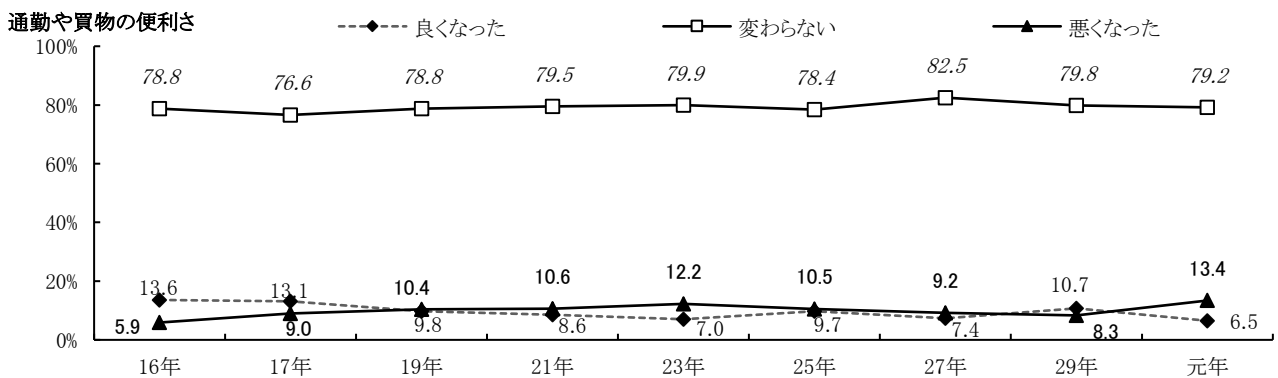
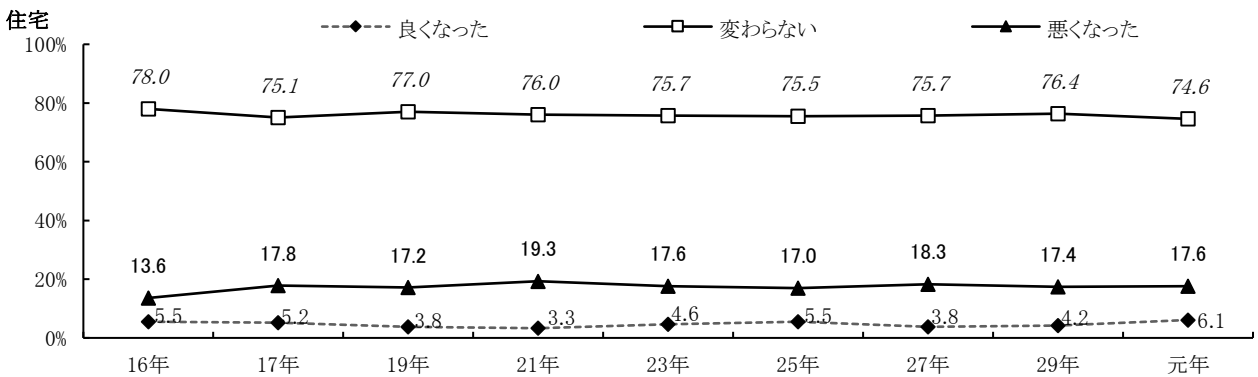
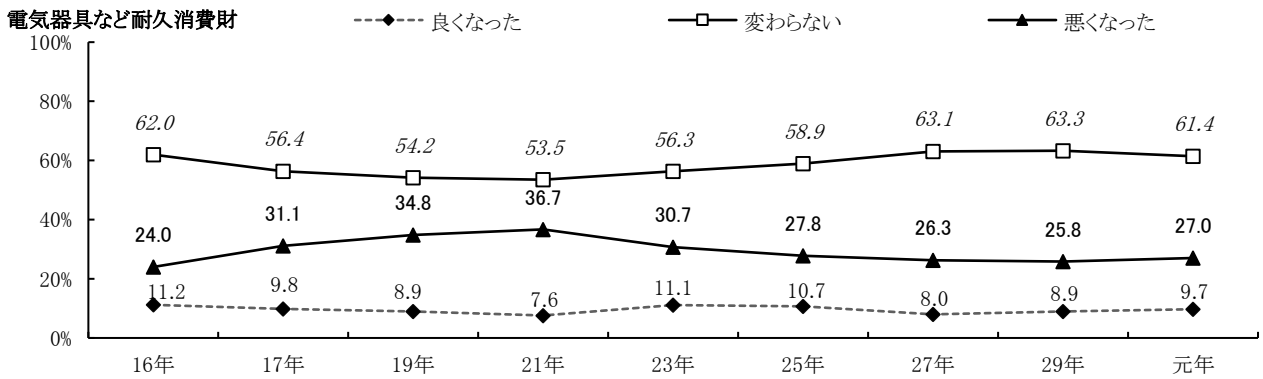
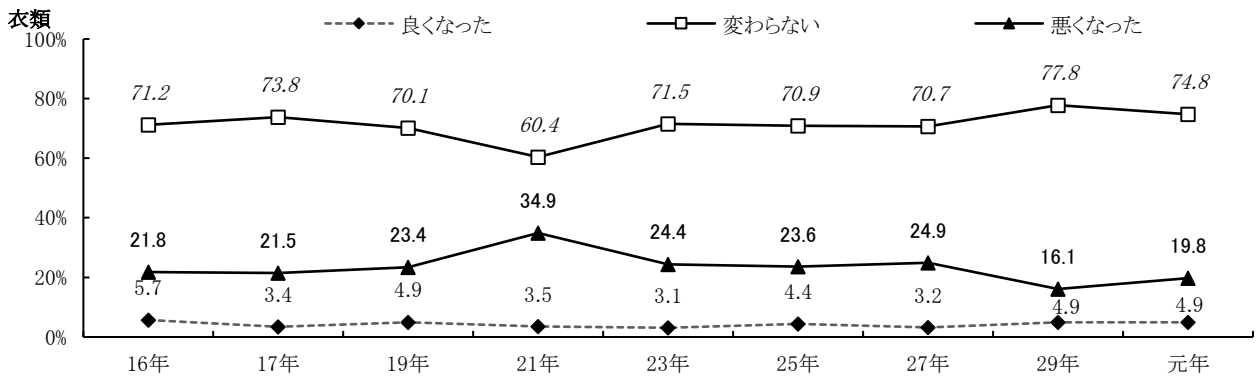


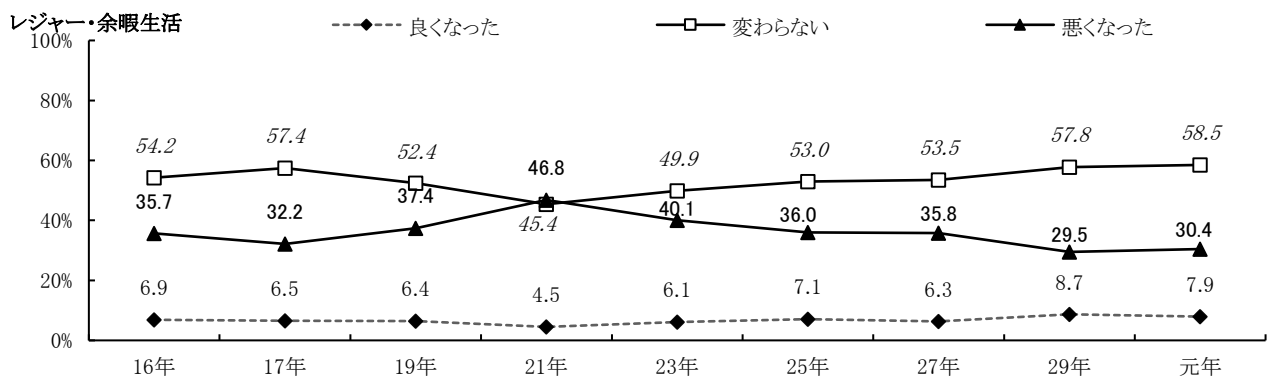
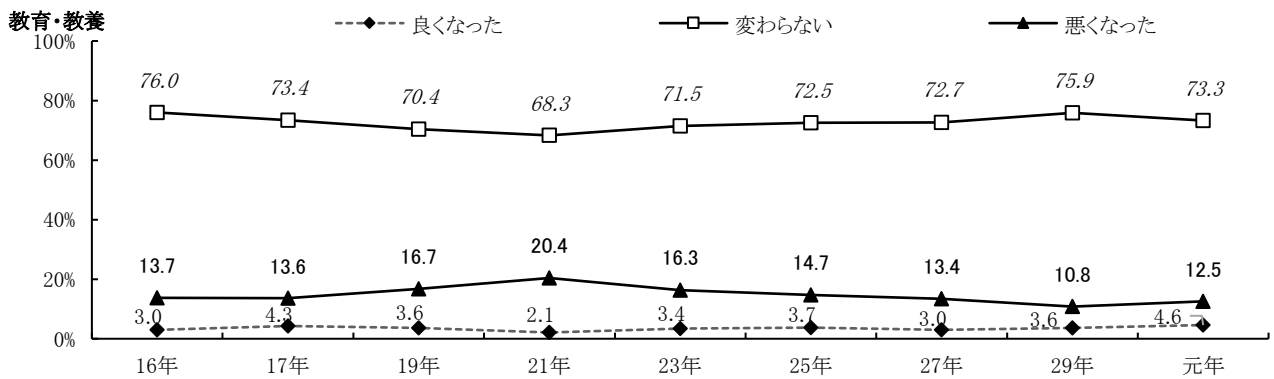
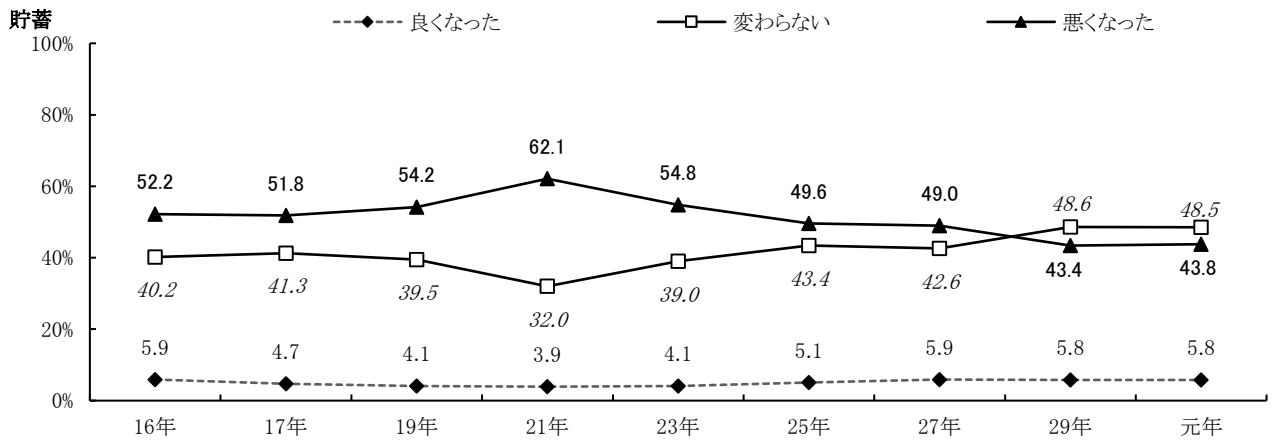
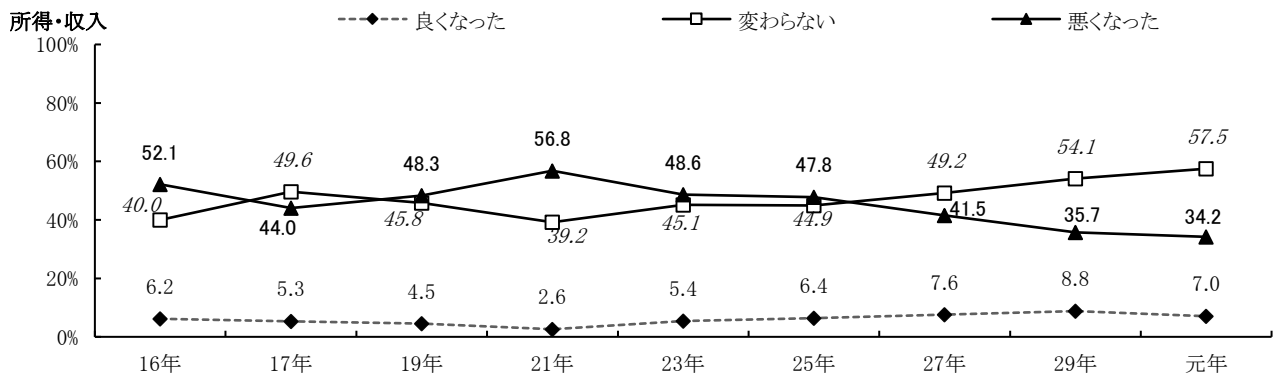
【経年変化】

経年変化をみると、前回調査と比較して、「良くなった」と答えた人の割合が、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」、「住宅」、「教育・教養」において増加している。

また、「悪くなった」と答えた人の割合は、「所得・収入」を除く全ての項目において増加しているが、特に、「通勤や買物の便利さ」は、5.1ポイント減少している。







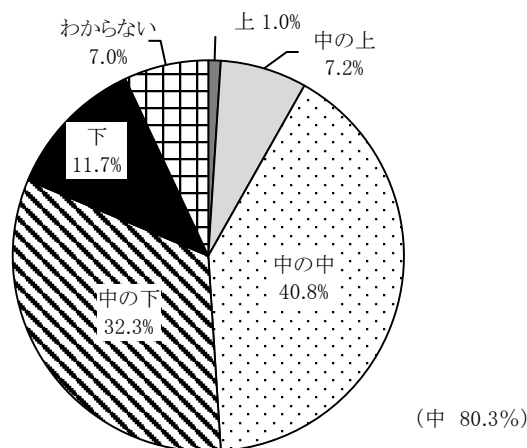
問3 暮らし向きの程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 上	1.0
2 中の上	7.2
3 中の中	40.8
4 中の下	32.3
5 下	11.7
6 わからない	7.0

暮らし向きの程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の中」と答えた人の割合が40.8%で最も多く、「中の上」(7.2%)及び「中の下」(32.3%)と合わせて80.3%の人が中流意識を示している。

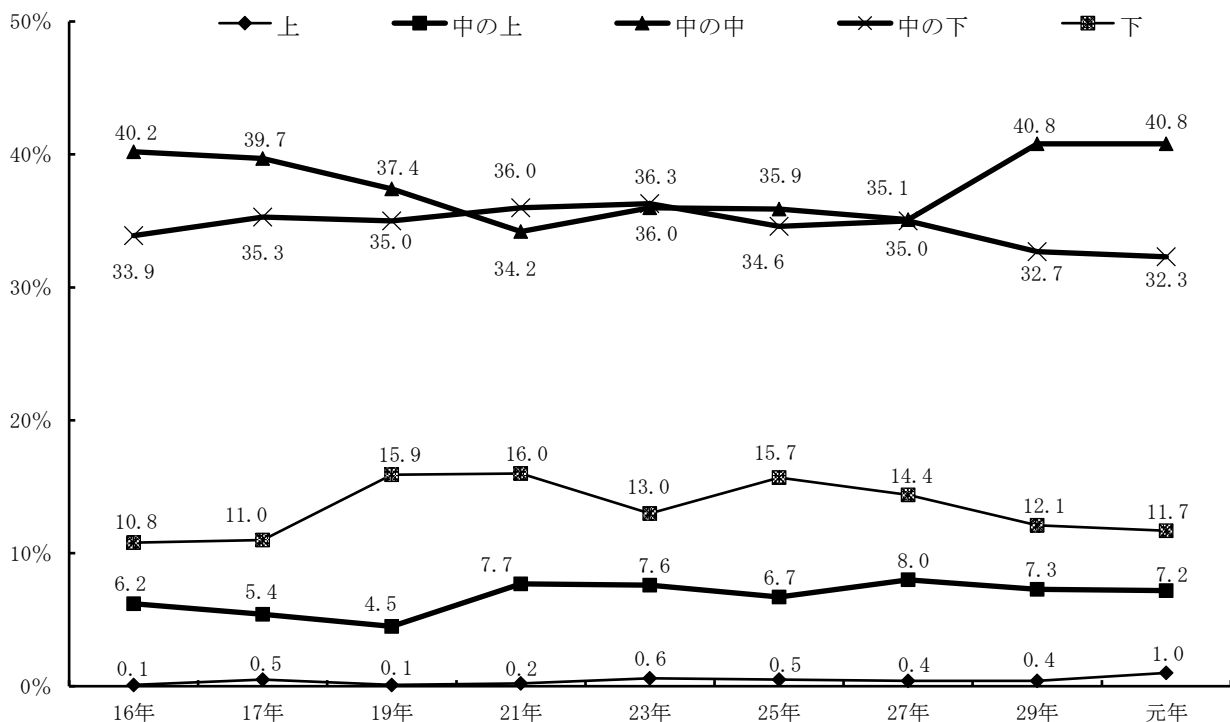
また、「上」と答えた人の割合は1.0%、「下」と答えた人の割合は11.7%であった。



【経年変化】

経年変化をみると、暮らし向きに対する県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、80%程度の人が、自分の家庭の暮らし向きの程度を中程度だと評価しているが、今回の調査では、「中」と答えた人の割合は、前回調査と比較して0.5ポイント減少している。

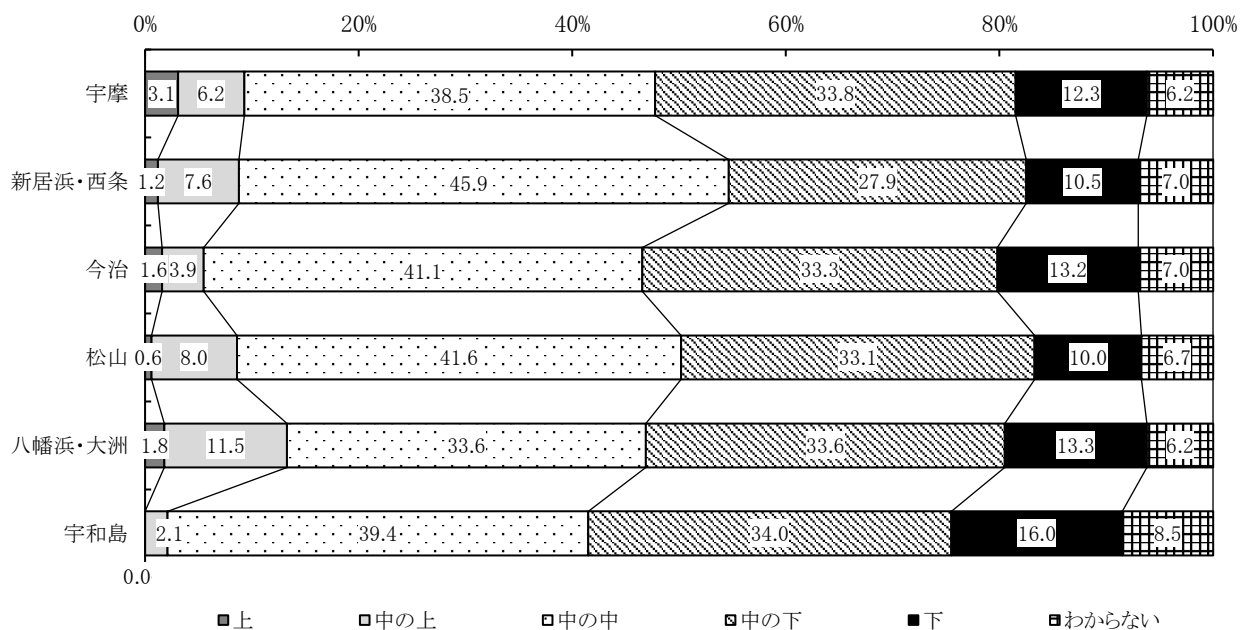
また、「上」と答えた人の割合は0.6ポイント増加し、「下」と答えた人の割合は0.4ポイント減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域を除く全ての圏域で「中の中」と答えた人の割合が最も多く、八幡浜・大洲圏域では「中の中」と「中の下」が同率で最も多くなっている。

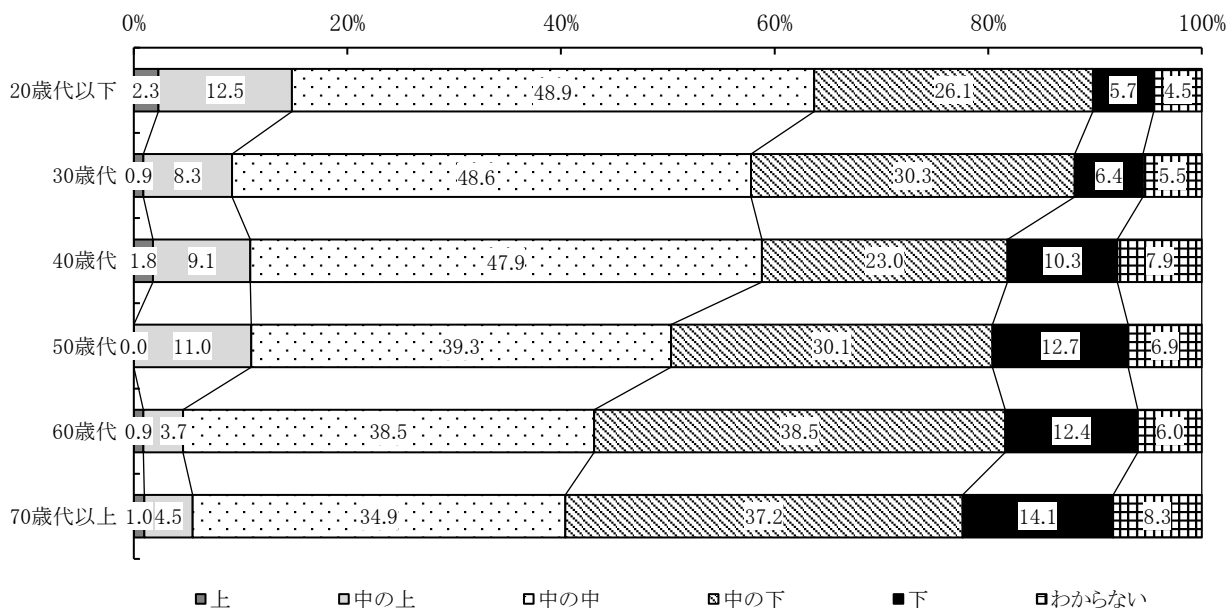
また、前回調査と比較すると、「下」と答えた人の割合は、宇摩圏域で前回調査より 7.7 ポイント減少しているが、宇和島圏域では前回調査より 7.6 ポイント増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下の年齢層で、「中の中」と答えた人の割合が最も多くなっている。60歳代は「中の中」と「中の下」が同率で最も多くなっている。70歳代以上は「中の下」が最も多くなっている。

また、前回調査と比較すると、20歳代以下で「下」と答えた人の割合が前回調査より 7.6 ポイント減少し、40歳代で「中の下」と答えた人の割合が 10.8 ポイント減少している。



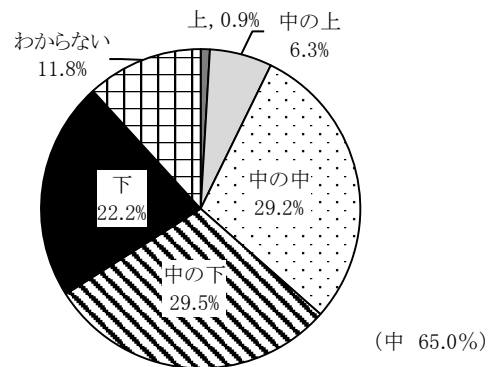
問4 資産の程度

お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入るとお考えですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 上	0.9
2 中の上	6.3
3 中の中	29.2
4 中の下	29.5
5 下	22.2
6 わからない	11.8

資産（土地、家屋、預貯金等）を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」と答えた人の割合が29.5%で最も多く、「中の中」（29.2%）、「中の上」（6.3%）と合わせて65.0%の人が中流意識を示しているが、問3の暮らし向きの程度（中：80.3%、下：11.7%）と比較すると評価が低い。

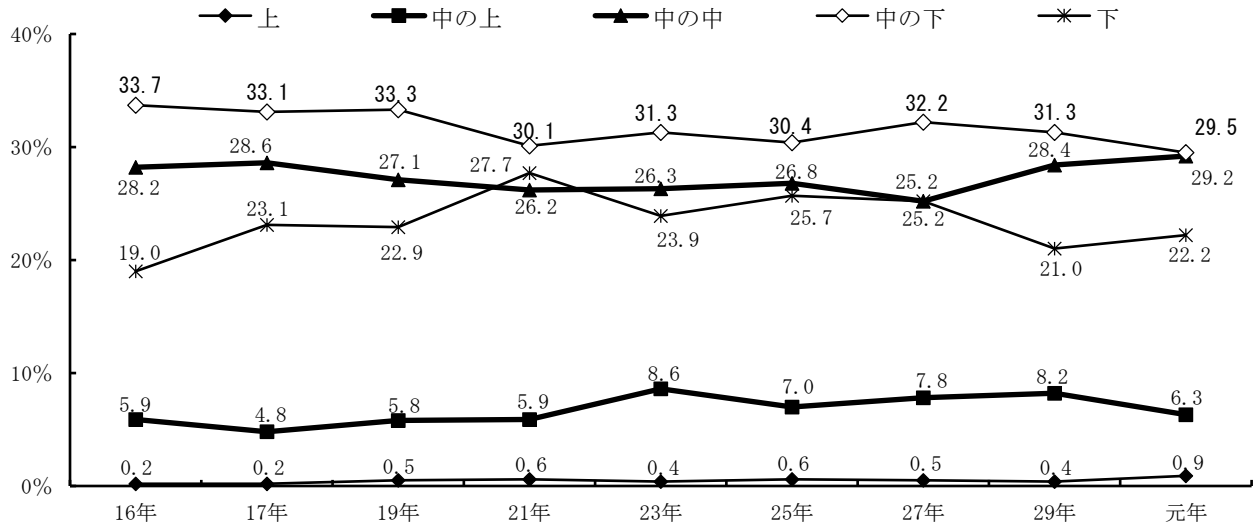
また、「上」と答えた人の割合は0.9%、「下」と答えた人の割合は22.2%であった。



【経年変化】

経年変化をみると、資産に対する県民の中流意識は引き続き強く、前回調査と比較すると「中」と答えた人の割合は、2.9ポイント減少している。

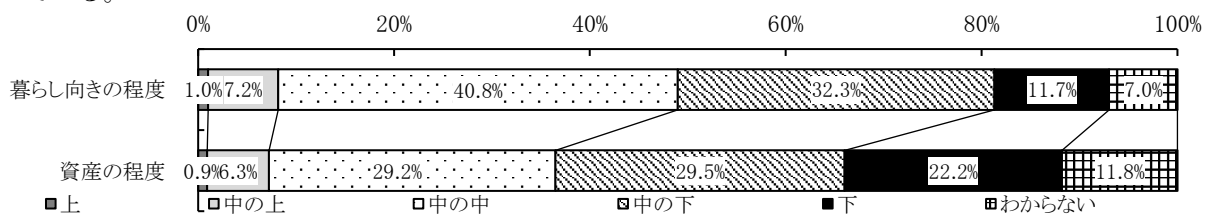
また、「下」と答えた人の割合が、前回調査より1.2ポイント増加している。



【暮らし向きの程度と資産の程度】

問3の暮らし向きの程度と問4の資産の程度の意識を比較してみると、暮らし向きの程度の方は「中の中」、資産の程度の方は「中の下」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「中」と答えた人の割合は暮らし向きの程度の方が15.3%多く、「下」は資産の程度の方が10.5%多くなっている。



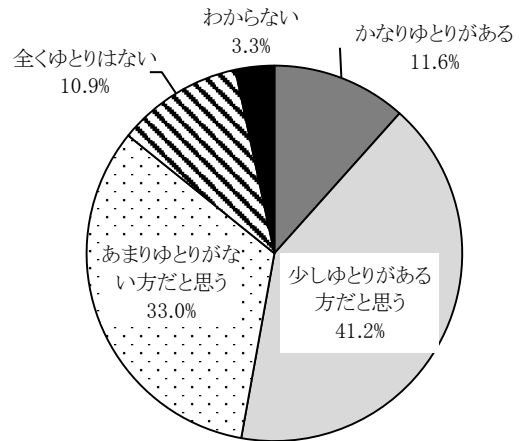
問5 生活のゆとり感

あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 かなりゆとりがある	11.6
2 少しゆとりがある方だと思う	41.2
3 あまりゆとりがない方だと思う	33.0
4 全くゆとりはない	10.9
5 わからない	3.3

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、52.8%（「かなりゆとりがある」（11.6%）、「少しゆとりがある方だと思う」（41.2%）であった。

また、「ゆとりがない」は43.9%（「あまりゆとりがない方だと思う」（33.0%）、「全くゆとりはない」（10.9%））であり、時間的なゆとりがあると感じている人の方が、多くなっている。



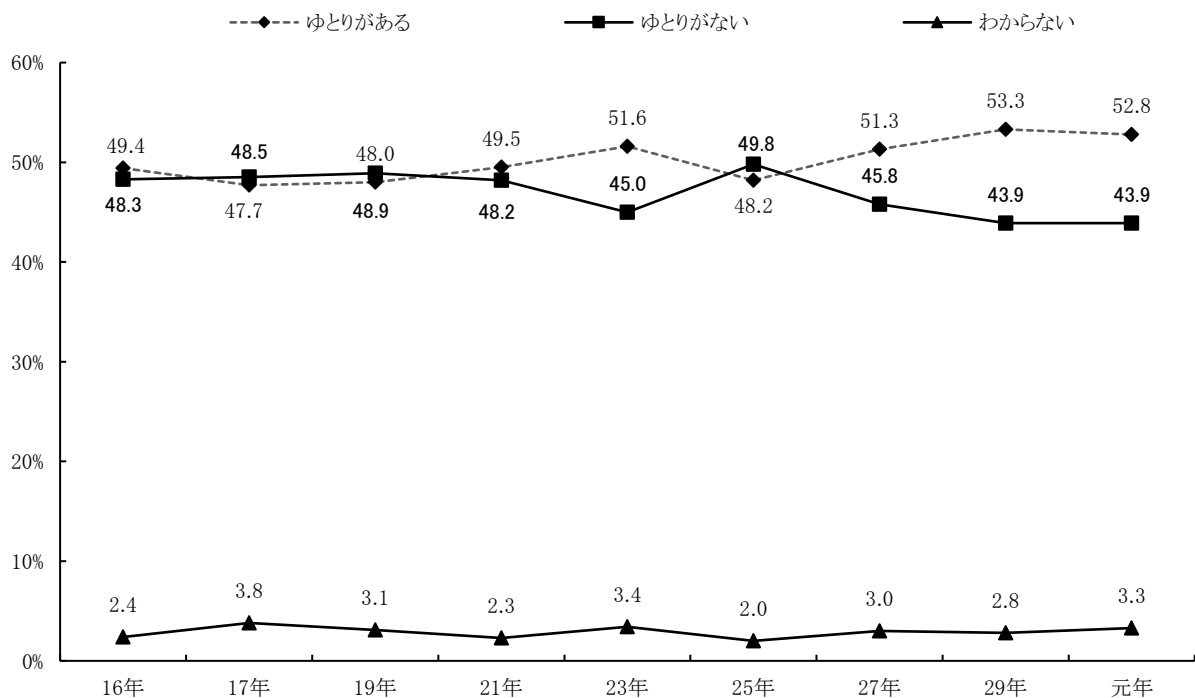
(ゆとりはない 43.9%)

(ゆとりがある 52.8%)

【経年変化】

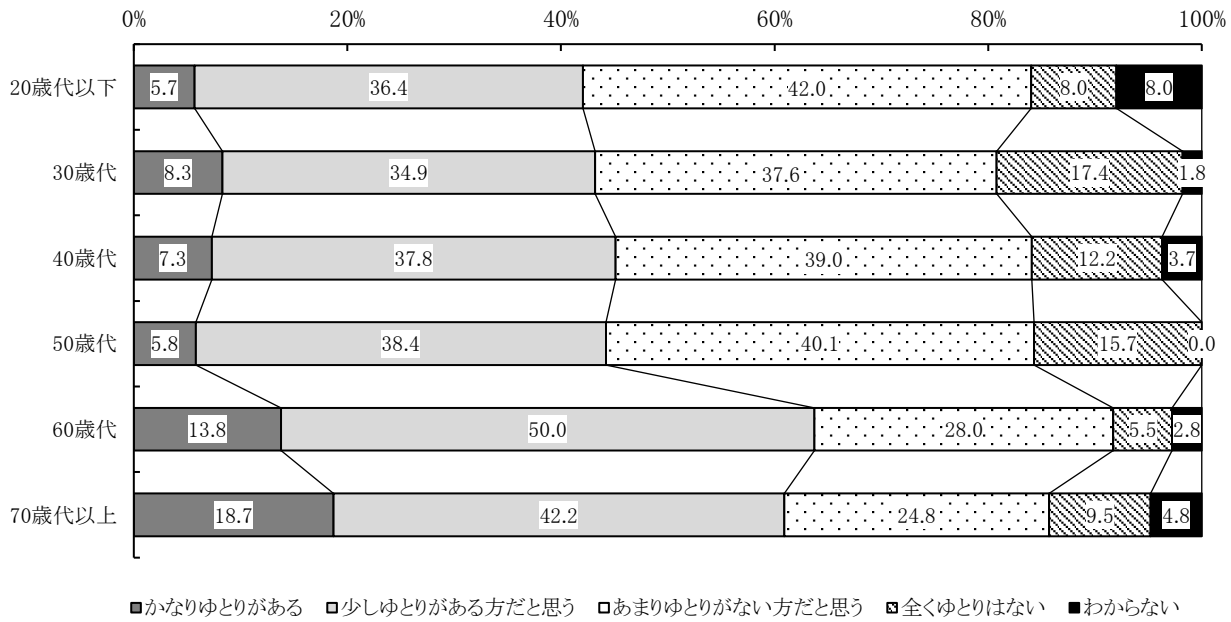
経年変化をみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、前回調査より0.5ポイント減少し、「ゆとりがない」は、43.9%で同じであった。

また、「ゆとりがある」と答えた人の割合は、平成25年調査以降増加していたが、前回調査から減少した。



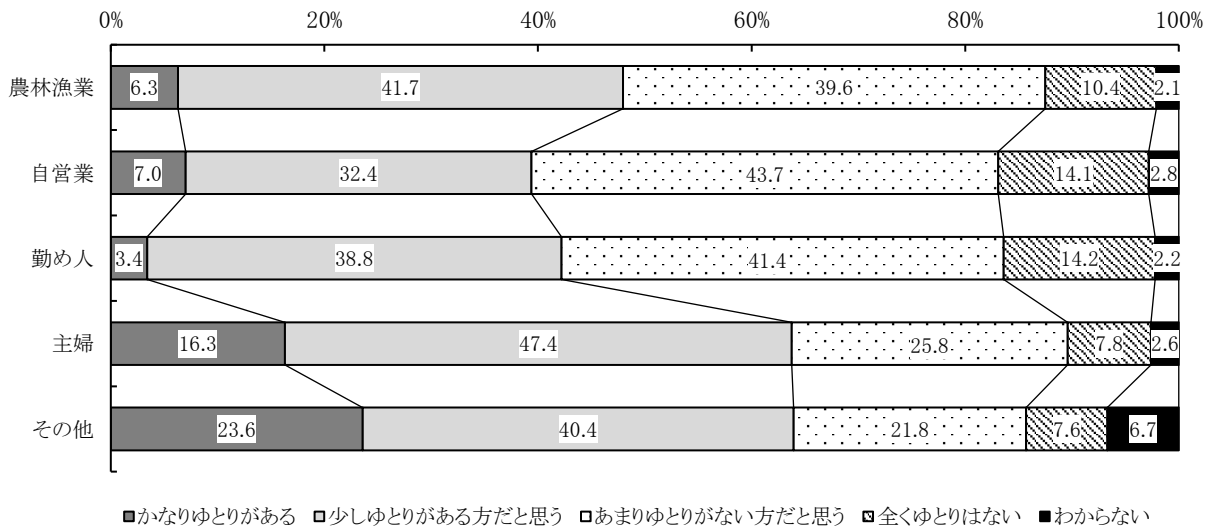
【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以上では「ゆとりがある」と答えた人の割合の方が多く、50歳代以下では「ゆとりがない」の方が多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦及びその他では「ゆとりがある」と答えた人の割合が多くなっている。特に主婦及びその他では「ゆとりがある」と答えた人の割合が60%以上で、「ゆとりがない」を大きく上回っている。自営業、農林漁業、勤め人では「ゆとりがない」の方が多く、自営業では、57.8%が多くなっている。

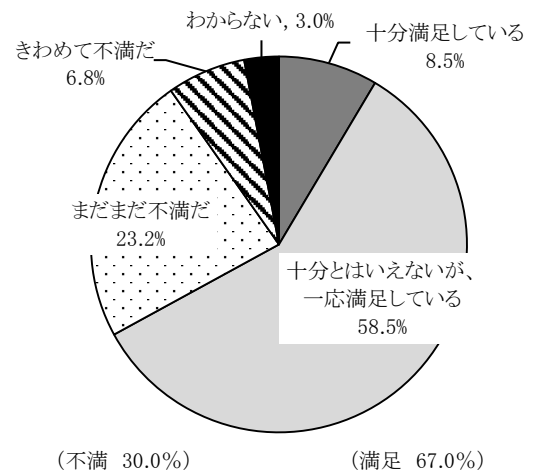


問6 暮らしに対する満足度

あなたは、現在のお宅の暮らしに満足していますか。それとも不満ですか。次の中から二つ選んで番号を○で囲んでください。

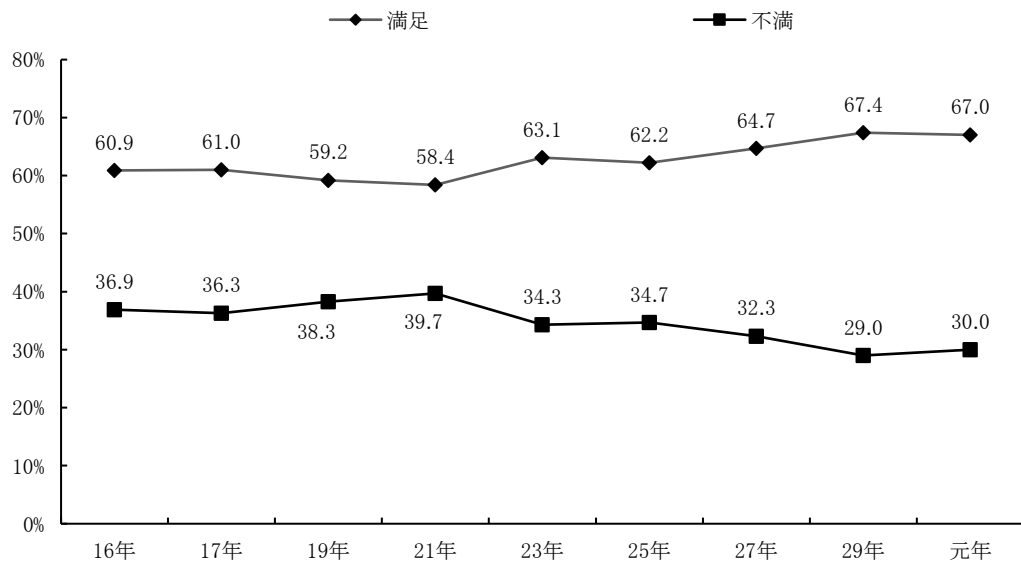
	(%)
1 十分満足している	8.5
2 十分とはいえないが、一応満足している	58.5
3 まだまだ不満だ	23.2
4 きわめて不満だ	6.8
5 わからない	3.0

現在の暮らしに満足しているか、それとも不満かを聞いたところ、「満足」と答えた人の割合が67.0%（「十分満足している」(8.5%)、「十分とはいえないが、一応満足している」(58.5%)）であったのに対し、「不満」は30.0%（「まだまだ不満だ」(23.2%)、「きわめて不満だ」(6.8%)）で、現在の暮らしに満足していると感じている人の方が多くなっている。



【経年変化】

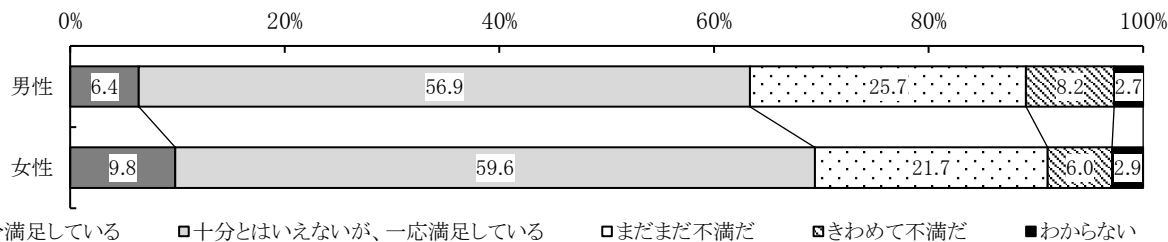
経年変化をみると、「満足」と答えた人の割合は、前回調査より0.4ポイント減少している。一方、「不満」と答えた人の割合は、前回調査より、1.0ポイント増加している。



【性別】

性別にみると、「満足」と答えた人の割合は、男性 63.3%、女性 69.4%で、どちらも 6 割を超えているが、女性の方が 6.1 ポイント多くなっている。(前回調査は女性の方が 5.9 ポイント多い。)

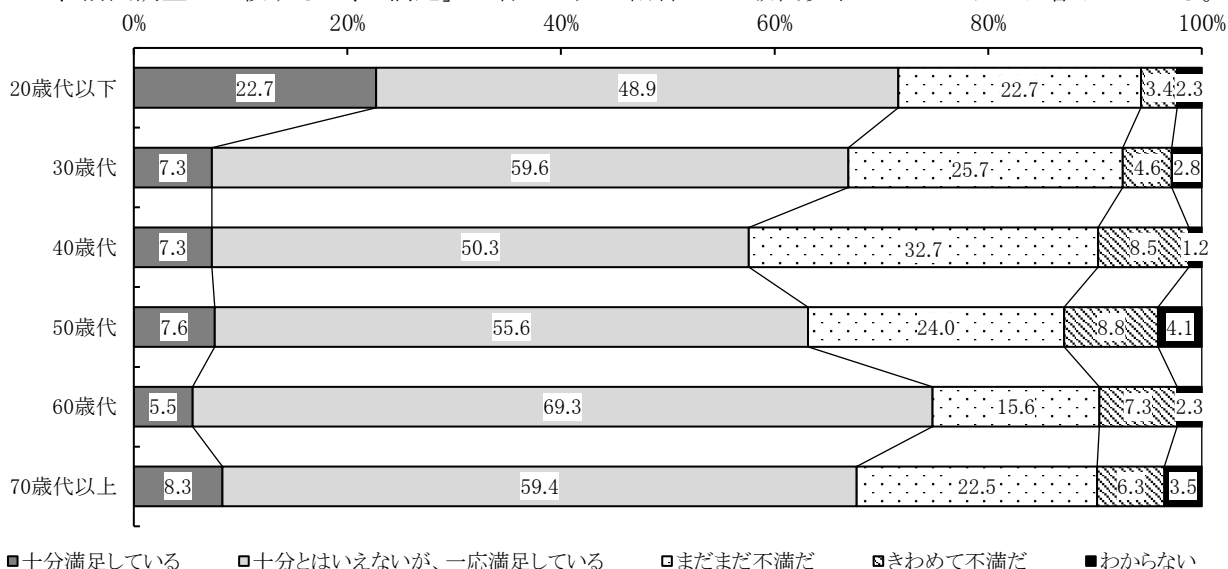
一方、「不満」と答えた人の割合は、男性が 33.9%、女性が 27.7%で、男性の方が 6.2 ポイント多くなっている。(前回調査は男性の方が 6.6 ポイント多い。)



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「満足」と答えた人の割合が「不満」を上回っており、60 歳代（「満足」：74.8%、「不満」：22.9%）で最も上回っている。一方、「不満」と答えた人の割合は、40 歳代（41.2%）で最も多く、以下 50 歳代（32.8%）、30 歳代以下（30.3%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「満足」と答えた人の割合が 20 歳代以下で 7.7 ポイント増加している。

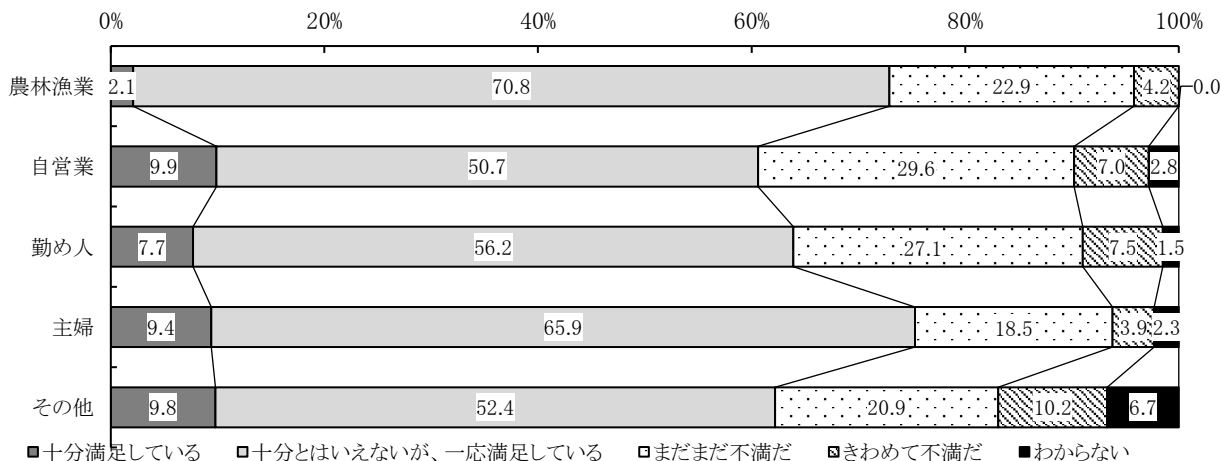


【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「満足」と答えた人の割合が「不満」を上回っており、中でも主婦（「満足」：75.3%、「不満」：22.4%）、農林漁業（「満足」：72.9%、「不満」：27.1%）で大きく上回っている。

一方、「不満」と答えた人の割合は、自営業（36.6%）で最も多く、以下勤め人（34.6%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「十分とは言えないが、一応満足している」と答えた人の割合が自営業では 14.7 ポイント減少し、農林漁業では、13.3 ポイント増加している。

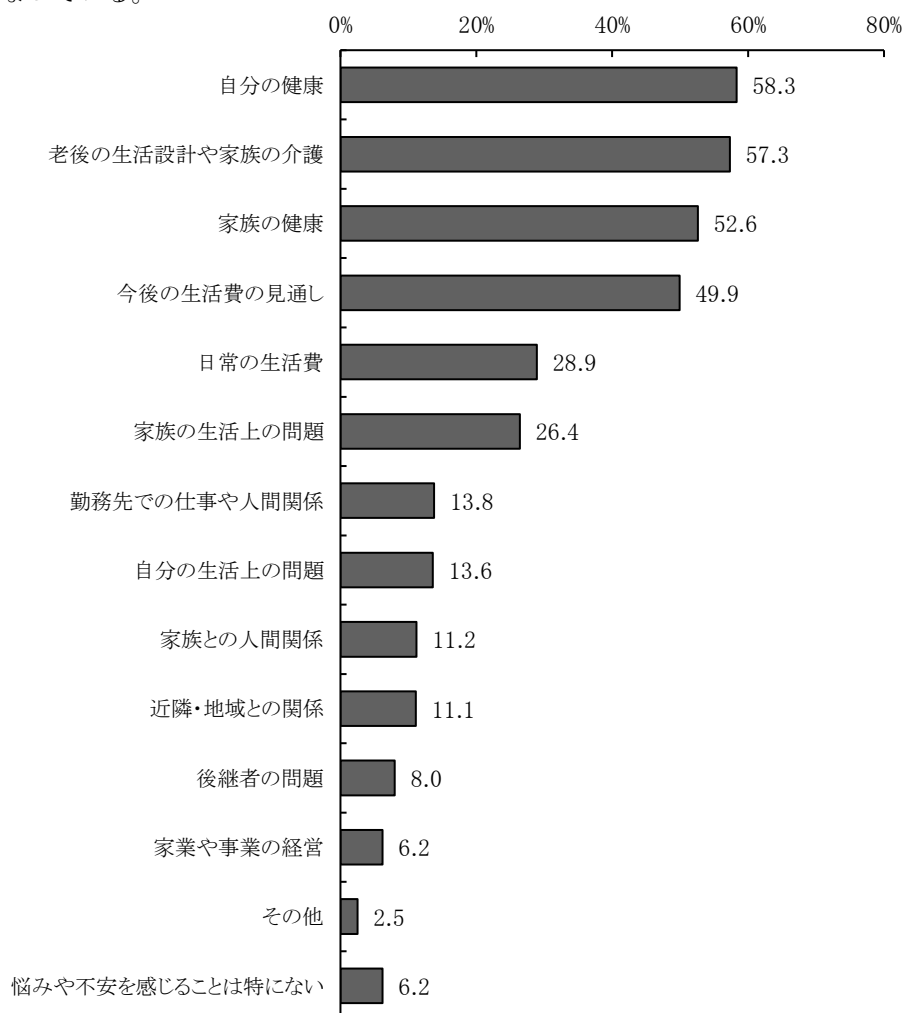


問7 日常生活での悩みや不安

あなたが、日常生活の中で悩みや不安を感じていることがあれば、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

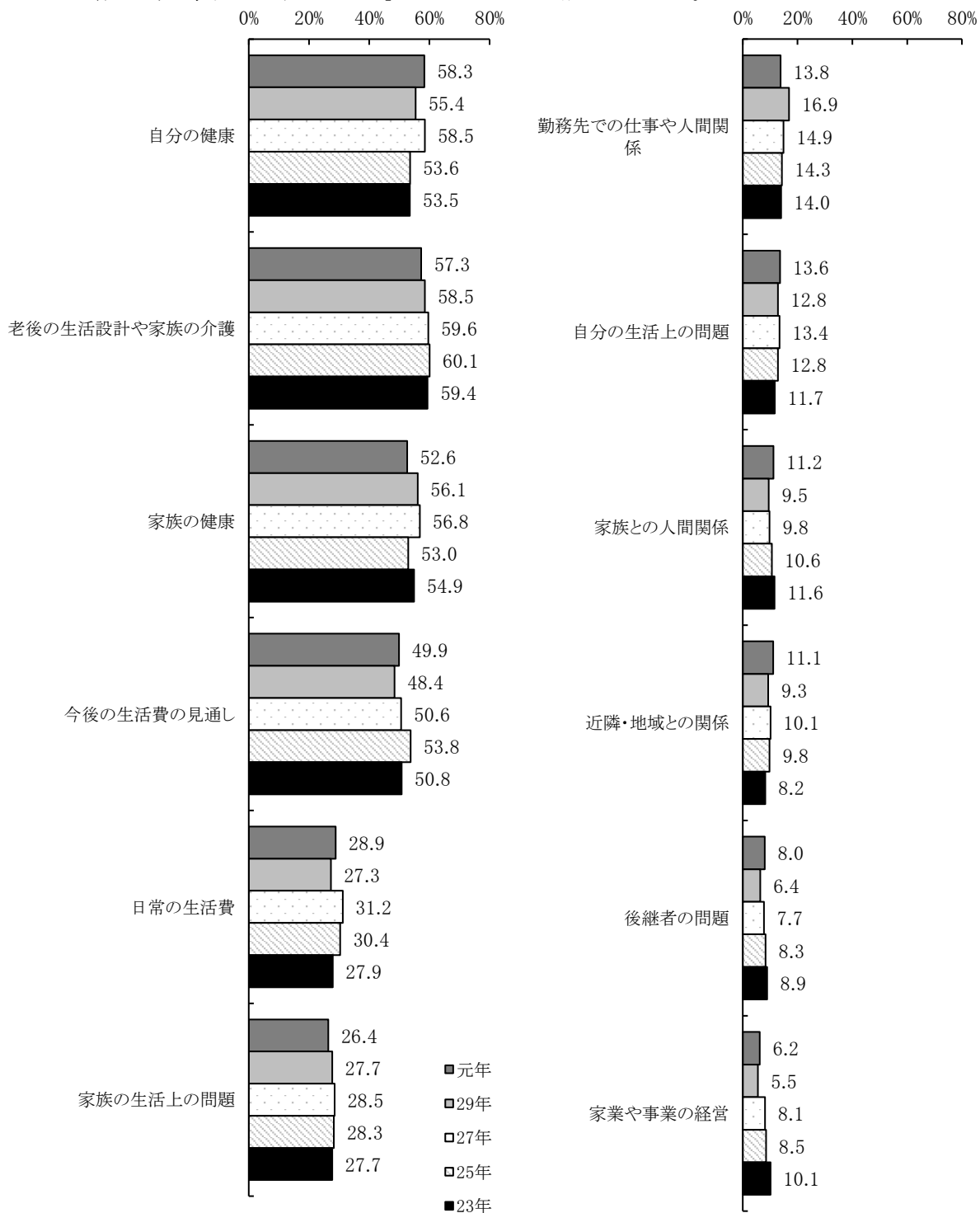
	(複数回答)	(%)
1 自分の健康について		58.3
2 家族の健康について		52.6
3 自分の生活（進学、就職、結婚など）上の問題について		13.6
4 家族の生活（進学、就職、結婚など）上の問題について		26.4
5 日常の生活費について		28.9
6 今後の生活費の見通しについて		49.9
7 後継者の問題（家業、農林漁業の将来）について		8.0
8 家業や事業の経営（農林漁業を含む）について		6.2
9 家族との人間関係について		11.2
10 近隣・地域との関係について		11.1
11 勤務先での仕事や人間関係について		13.8
12 老後の生活設計や家族の介護について		57.3
13 その他		2.5
14 悩みや不安を感じることは特にな		6.2

日常生活の中で悩みや不安を感じていることがらを聞いたところ、「自分の健康について」と答えた人の割合が、58.3%と最も多く、以下「老後の生活設計や家族の介護について」（57.3%）、「家族の健康について」（52.6%）、「今後の生活費の見通しについて」（49.9%）の順であり、将来の生活や健康に関する悩みや不安を感じている人が多くなっている。



【経年変化】

経年変化をみると、悩みや不安の上位の項目は、平成23年調査以降大きな変化は見られず、「老後の生活設計や家族の介護」に関する悩みや不安を感じている人が多い。「自分の健康について」が前回調査より、2.9ポイント増加し、「家族の健康について」が3.5ポイント減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代以下では「今後の生活費の見通」、40歳代及び50歳代では「老後の生活設計や家族の介護」、60歳代以上では「自分の健康」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、20歳代以下では「自分の生活上の問題」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して特に多くなっている。「老後の生活設計や家族の介護」は、50歳代で他の年齢層と比較して多く、「自分の健康」は、年齢層が高くなるほど多い。「家族の健康」は、50歳以上で多くなっているなど、各年齢層によって悩みや不安を感じている項目に大きな違いが見られる。

